

平成30年度 地域発元気づくり支援金事業総括書

事業名	麻倉で芸術に親しむ事業
事業主体 (連絡先)	麻倉 Arts&Crafts
事業区分	(3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,719,448円(うち支援金:1,260,000円)

活動写真

年間を通して多くの美術やクラフト、音楽演劇といったイベントや展覧会、ワークショップを行った。

美術では6月のお顔展、街に精霊がやってきた。アンデパンダン展、クラフトでは北アルプスクラフト作家展、酒器展。麻倉として山からの贈りもの展、音楽：第16回、17回麻倉音楽会、第7回、8回麻倉歌声茶会。演劇は第4回演劇祭り上演とワークショップ。各イベントごとに様々なワークショップを実施。 ※詳しくは別紙1



事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。それぞれの美術、クラフト展示会は、約300~400名の入場者があった。ワークショップは作家によっても内容によっても異なるが約4~26名である。今年始めた夜と昼の美術クラブは特に夜の美術クラブにおいて16~18人の参加者が有ったりで手応えを感じた。

※詳しくは別紙1

今後の取り組み

昨年取り組み始めた若い世代対象の夜のワークショップを来年度から月に一回定例化をして徐々に増やしていければと考えている。

子供の情操教育に親の関心が高いので、親子でより楽しむような図画工作、美術ワークショップを増やしていくとともにワークショップを実施できる新たな人材を発掘したい。美術やクラフトなどのイベントを企画し構成し演出できる人材を育てて行きたい。

目標・狙い

- 1、各事業5%の参加者、入場者の増加
- 2、各事業内容の充実
- 3、様々な世代の参加を得る

自己評価 B

理由

全体として来館者は減ったが企画イベントの入場者数、ワークショップの参加者は増えた。今まで一般公募はアンデパンダン展だけだったが、2つの空間美術も一般公募にして、一般の出展者が増え来場者も増加。年間を通しての麻倉の様々なイベントやワークショップは他では、見られない事業で大町近辺の芸術の拠点としての役割を果たし始めて来たものと思われる。松本、穂高からの来訪者も多い。今年は新しい作家のワークショップにも力を入れ魅力を増している。ボランティアの協力もあって充実した1年だったが、ますます人の輪を広げ様々な世代が集う場所として育ててゆきたい。

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載する

空間美術展をすべて一般公募にして参加者や来場者が増えてきたことは大きな収穫だった。もうひとつ今年、企画展の構成演出に3人の演出家を立てたことで今までとは違った展覧会となったことも企画展に来場者が増えた大きな要因だろう。マンネリする事無く内容をもっと豊に楽しく充実させることで参加者を増やしていきたい。企画立案、演出できる人材を育てる事にも力を注いでいく。麻倉では、これからも美術、図画工作、芸術全般の楽しさを市民をはじめ多くの人たちに伝えていきたい。そして一人でも多くの人々が実際に表現を始めることのお手伝いをしたいと考えている。芸術には大きな力がある。住民一人一人が感性を豊にし独自のものの見方、表現の手段を持つことが地域社会の活性化に繋がると信じている。新春お笑いVJ大会が企画演出家の転出と終業で開催できず残念だった。他の人材も含め実施を検討したが、映像関係のイベントを企画実現できる人材を見つける事が出来なかった。今後映像には限りない可能性がありそうで特にパソコンやスマホの映像文化に注目し映像についても活動を広げて行きたい。この3年間元気づくり支援金にはお世話になった。今後は参加者と関係者で応分に会費を募り麻倉を運営していく。そんな体制を作れたのも支援金のおかげと感謝している。